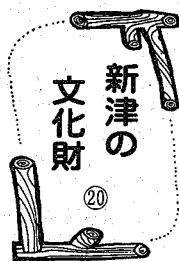




真柄家石油關係資料



領主溝口侯の命をうけて領内の開発可能なる土地を見廻つてゐるうち、「不思議な草や草刈出候処段々見出候」と初めて石油を発見したことを報告してゐます。その出油地は當時の柞目木、塩谷、金津、東島、天ヶ沢、湯川、小須戸、毛の七ヶ村で、現在の新津市、小須戸町、田上町、加茂市にまたがつてゐます。仁兵衛は領主に願ひだて採油事業に着手し、元和三年（一六七七）にはじめて採掘独占権を得ました。

仁兵衛は後に住居を柄目木に移し、以後明治五年に至るまでの間、真柄家では代々今日の事業税ともいうべき「運上金」を納めて採掘を続け、草水屋または草水稼人と称していました。

真柄家らの石油事業は、慶長・元和の草創期から天明年間に至るおよそ一七〇年間が最も隆盛を極めた時期で、これは出油量に見合う運上金の増高によつて知られます。しかし天明以後は相次ぐ天災地変などが重なり、出油量は次第に減少し、度々運上金の減額を願ひ出してきます。これは手掘りによる掘削方法が知られていなかつた当時の技術水準にあつては止むを得ないものでした。

絵図などの石油関係資料は、慶長三十三年（一六二一）仁兵衛から明治三十八年（一九〇〇）道三郎までのおよそ三〇〇年間、江戸初期から明治の近代石油産業発生にいたった新津田田黎明を解明する大きな手掛かりになると同時に、日本の石油史全体的にとっても学術的価値の高いものとなっています。

市
民
文
藝

短歌

柿紅葉散り初むる枝刺虫いらむしの未だ残りて繭に入らず

野口正人(南町)

俳句

柏木京子（三枚潟）

真つ向に釣瓶落しの日本海

熊木志津子（新町二）
服部照子（満願寺）

川柳

服部照子（満願寺）

水替無宿俺の先祖か　もしかして
のろま人形に何故か似て来た旦那さま

大 湊 弘 (秋葉町三)
大 湊 とも子 (秋葉町三)

大湊 とも子 (秋葉町三)

鐵道

資料館だより (25)



写真は見てのとおり、荻川駅の駅舎が改築されたことを祝して運転された客車の前頭に取り付けた、いわゆる記念ヘッドマークですが、当館にはこの他に使命を終えたいろいろなヘッドマークが数多く掲出されています。

中でも一際目を引くのは、かつて新津駅を發着した栄光の優等列車の、最後の運転を飾ったものです。

「さようなら　とき号(昭57・10)」「さようなら　急行佐渡(昭60・3)」「さようなら　急行赤倉(同上)」

これらを目にすれば、きつとなつかしくもまた一抹の寂しさも禁じ得ないに違ひありません。

さて鉄道資料館は、移転作業のため、平成九年十二月二十八日(日)から平成十年三月三十一日(火)まで休館とさせていただきます。

